

## 1. 写真撮影のコツ!

最近のデジタルカメラはとても優秀で、シャッターを押すだけでたいがいの状況においてきれいな写真を撮ることが出来ます。しかし場合によっては「暗すぎた!」、「ボケてる!」、「ブレてる!」といったような失敗写真がないわけではありません。その失敗写真が大切な記念の一枚だったならば、目も当てられません。以下では、デジタルカメラ初心者のための写真撮影のコツをいくつかご紹介いたします。

### 『オートモード』で難しい設定はカメラに任せよう



「デジタルカメラは設定項目がたくさんあって操作が難しい。」というイメージをお持ちの方、意外と多いですね。そんな方はまず撮影設定を「オートモード」に設定してみてください。「オートモード」はほとんどのデジタルカメラに搭載されている機能で、写真の明るさや色調などを適切な仕上がりにするためのいくつかの設定を自動で行ってくれる初心者に心強い機能です。まずは「オートモード」で撮影に慣れてから、こだわりの撮影が可能となる他のモードにステップアップしてみましょう。

『オートモード』はカメラマークを選択する場合があります。



#### 『オートモード』がしてくれること

オートモードでできることは、カメラによって様々ですが代表的なものをご紹介します。

##### 光の量（明るさ）を自動調節

人間の目が明るいところ暗いところで瞳孔が開いたり閉じたりすることで、光の量を調節するようにカメラも撮影場所に合わせ写真が明るすぎたり暗すぎたりしないように光の量を調整してくれます。

##### 色合いを自動調節

写真が赤すぎたり青すぎたりしないように、自動で色合いを調節してくれます。この機能はデジタルカメラ特有の機能となります。

##### フラッシュの自動設定

カメラに内蔵されているフラッシュを、発光するか発光しないかといった設定や発光する場合の光の量を調節してくれます。

※オートモードで撮影した写真の明るさや色合いと異なった場合は、本ソフトウェアの補正機能でお好みの明るさ・色合いに調整してみましょう。

## 正しい構え方を覚えよう



### 【正しい構え方】

脇をしめ両手でしっかり持ち、指がフラッシュやその他センサーを覆わないように注意しましょう。



### 【ブレる可能性が高い構え方】

片手で持ち不安定な状態ではブレてしまう可能性が大きい。

正しいカメラの構え方は、写りを悪くする要因となる「ブレ」を防ぐためにとても大切なポイントとなります。

本体の小さいカメラは特にぶれやすいので、両手で持って撮るようにすることを心がけましょう。また初心者にとって“ありがち”なのが、シャッターを押す右手人差し指に力が入りすぎて、押した瞬間に右に傾いて「ブレ」を起こしてしまうケースです。「シャッターボタンを押すのは指だけ」と意識して、優しく押しこんで下さい。



### 【シャッターを押す時の注意】

シャッターを押す腕に力が入りすぎてしまうと、カメラが右に傾きながら動いてしまってブレてしまう要因となります。

## ブレてしまった場合の比較写真



### 【作例 A：ブレのない写真】

くっきり鮮明に写っています。



### 【作例 B：ブレてしまっている写真】

ブレてしまったことで生じる残像により、ボケてしまっています。

## シャッターの『半押し』でピントを合わせよう

多くのカメラのシャッターボタンは、2段階のスイッチ構造となっています。ボタンを軽く押すことを「半押し」といい、さらに強く押し込むことを「リリース（全押し）」といいます。いわゆる一般的な“シャッターを切る（押す）”動作を示すのが、「リリース」に相当します。

では、「半押し」とはどのような意味を持つのでしょうか？

「半押し」とは、カメラのオートフォーカス（自動ピント\*合わせ）機能を使って、写真のピントを画面内のどこに合わせるかを決定するための操作のことをいいます。

まずはカメラの液晶画面を見ながら、写したい人（物）を画面内の中央に配置し、「半押し」することでピントを合わせます。次にそのままシャッターの「半押し」を続けながら、おさまりの良い構図（次ページ参照）までカメラ位置を微調整し、「リリース（全押し）」することで、撮影者の意図通りのピントで写真を撮ることができます。



ちなみに最新のカメラにおいては、人物の写真を撮る場合に自動で画面内の“顔”を判別しピントを合わせてくれる「顔認識機能」や、液晶画面内のピントを合わせたい部分に直接タッチすることで「半押し」と同様な操作ができる機能を搭載した機種もあります。撮影者のもっとも使いやすい方法でピント合わせをされることをお勧めいたします。

### \* ピントとは

ピントとはカメラのレンズにおける焦点のことです。

写したい人（物）にピントが合っていることで、鮮明に写すことができ、逆にピントが合っていない場合は、ぼやけた描写となります。ピント合わせを失敗した写真を指し、「ピンボケ」と呼びます。



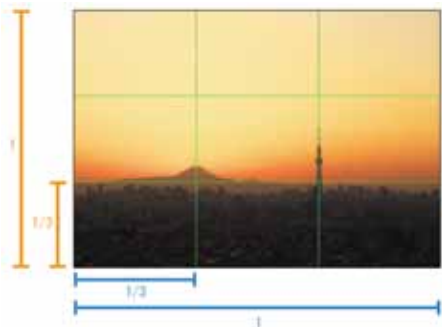
【作例 A】  
ピントが人形に合っていて、くっきりしています。



【作例 B】  
ピントが背景に合い、人形がピンボケしてしまっています。

## 構図（フレーミング）を意識しよう

構図とは、写真の仕上がりの効果を配慮した画面の構成のことを指します。簡単に言うと、被写体のバランスや配置取りなどをセンス良く構成するかということです。言葉で説明すると簡単なようでも、なかなか実践するのが難しく、いまひとつ撮った写真のバランスが良くない、格好良く撮ることができないと思われる方へ、構図を意識する上で参考となる「三分割法（さんぶんかつほう）」をご紹介します。



「三分割法」は、カメラ構図の中で最も基本的で、最も実用的な構図のひとつです。

縦横それぞれ 1/3 の線上に背景線を置くか、この線の交点上に被写体を置くことで、構図としてバランスが良くなります。

## 三分割法実践 比較作例



【作例 A】  
カワセミを中央に配置した写真。



【作例 B】  
三分割法に則り、左下交点にカワセミ、下線上に枝を配置。カワセミの視線の先が広がり、バランスよくまとまった印象です。